

助成対象活動報告シート

団体名： 名駅東花車・船入地区まちづくりの会

1 助成を受けて実施した事業

- ※ 団体が行った内容とコンサルタントが行った内容がわかるように記入してください。
また、事業の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

<団体>

●R5年7月11日(火)：勉強会(市政出前トーク)

名古屋駅周辺のまちづくり構想の理解を深め、私たちの地域との関りを考える構成です。

講師は、名古屋市住宅都市局 リニア関連都心開発部 主幹 泉 善弘 様。

案内チラシを地域に配布した他、メルマガや中部経済新聞にも開催告知の記事を掲載していただきました。



当日は、「都市再生緊急整備地域」や、「民間再開発支援ガイドライン」についても取り上げて頂き、とても満足感の高い構成で、普段会えない方や、全く面識のなかった方も参加していただき、とても有意義な機会となりました。

参加者アンケートには、「分かりやすかった」、「とても有意義であった」、「名駅周辺のまちづくりの概要が分かった」、「しっかりとした資料が用意されていて理解しやすかった」などの回答がありました。

●R6年1月17日(水)：防災活動の情報収集
栄東まちづくり協議会様を訪問し、まちづくり活動や防災などについてお話を伺いました。異なる立場の関係者との連携の必要性や、池田公園で開催する防災訓練に参加を促す秘策などが学べ、大変参考となる内容でした。



●R6年2月13日(火)：名古屋市と情報交換と協議

「はなぐるまちづくり構想」の実現に向け、災害に強い街を目指していくことや、「地区計画づくり」を進めていく方向性につき、助言や応援の言葉をいただきました。

<コンサルタント>

●毎月開催の理事会に出席いただき、①防災上の課題と対策の整理、②まちづくり推進手法の検討、③まちづくり構想の更新 などにつきレクチャーいただきました。

●R6年2月：高度な構想資料「はなぐるまちづくり構想の進め方」を製作いただき、地域への公表や説明に仕方に加え、今後の展開についてもアドバイスいただきました。

2 事業の成果および事業計画全体における今年度の達成度

R5年2月に製作した「はなぐるまちづくり構想」は、構想の理念・方針などを整理したもので、まちづくりの方向性や全体像を示すことはできましたが、その進め方までは考えが及んでおりませんでした。

R6年度は、この構想を具現化していくための方策について、コンサルタントのアドバイスを受けて、その道筋を見出すことができました。

高度な構想資料「はなぐるまちづくり構想の進め方」を年度内に地域関係者に公表するまでには至りませんでした。今後の事業化を見据えると、新たな道のりのスタートラインに立てたと感じております。



3 事業により見えた課題

地域住民をつなぐ視点として「防災」という切り口を見つけ、小さなアクションとして地道に関係者との顔合わせや説明を繰り返すことも検討しましたが、構想の実現性を疑問視される方や、むしろ構想の早期実現を求める方など、スピード感にも差があり、構想の推進手法やロードマップをお示しする必要性を感じていました。

そんな中、今年度のコンサルタントとの活動を通じて、住民・地権者・事業者・来訪者など多様な方々にとっての共有価値となるような『まちのルールづくり』を進めていくという新たな方向性が定まりました。

いよいよ、地域に集う人々をつなぎ、絆を深める活動を積み重ねていく土台ができましたので、「コト」の仕掛けや展開ができる専門家の活用も検討課題としつつ、地域合意を得ていくことが一番大事なステップと考えています。

4 今後の事業等の展望

●高度な構想資料「はなぐるまちづくり構想の進め方」を地域に配布できる形にまとめ、HP等でも公表します。

●まちづくり構想の説明会および勉強会を開催します。

●マルシェや防災訓練など、地域で交流が進むイベントの開催を計画します。

●災害に備えて花が咲く街となるよう、多様な関係者との対話を重ね、誰もが必要性を感じられるようなルールづくり（地区計画）を進めていきます。

●名古屋市との情報交換や協議を重ね、地区計画の具体案（道路、公園、土地利用、地下鉄駅、堀川、遊歩道、社寺、山車など）を提示し、市での検討も進むように課題解決の積み上げを行っていきます。



From Vision to Reality 構想から現実へ

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。